

2014年度第2回「鳥居基金」助成実施報告 (TE-80)

氏名(所属): 岡部 宣章 (学習院大学大学院自然科学研究科化学専攻)

助成: 海外派遣 (フランス、エクス=アン=プロヴァンス)

課題: AMS-13 での研究発表

本文:

このたび、日本地球化学会「鳥居基金」により、渡航費用の一部を援助いただき、フランスのエクス=アン=プロヴァンスにて行われた AMS-13 に参加させていただきましたので報告させていただきます。AMS-13 が行われたエクス=アン=プロヴァンスはマルセイユ・プロヴァンス空港からバスで 30 分程度の距離にある噴水の街であり、芸術家ポール・セザンヌが生を受け、そして生涯を終えた都市として有名です。エクス=アン=プロヴァンスの古い町並みは観光地である旧市街地を中心に多く残されており、セザンヌが活躍した当時の息吹が今も感じられます。一方で、学会会場となった **Montperrin Campus** は駅からみて旧市街地の反対側にあり、閑静で学術発表に非常に集中できる環境となっていました。マルセイユ・プロヴァンス空港に到着した日は、南仏とは思えないほど涼しく、日本の暑さを遠く感じるほどでしたが、学会が始まり議論が白熱するに従ってか、気温も上昇して汗ばむ陽気になっていました。

今回参加した AMS-13 は、AMS(Accelerator Mass Spectrometry:加速器質量分析装置)に関する学会であります。AMS は ^{14}C 、 ^{10}B 、 ^{129}I 、 ^{36}Cl といった地球化学的に重要な放射性核種と安定核種の同位体比を測定する装置であり現在までに多くの研究報告がなされています。筆者は水圏におけるヨウ素の挙動に関して興味を持っており、特に ^{129}I は半減期が 1570 万年と非常に長いことから様々な指標として利用することで研究を行っています。今回の学会では「**I-129/I-127 dating of Hokkaido underground fluids by AMS**」というタイトルで、北海道の温泉水の起源について $^{129}\text{I}/^{127}\text{I}$ 比を利用した年代測定からの考察に関して報告させていただきました。学会会場では水圏環境を含めて ^{129}I に関する報告が行われていました。特に今回の学会は実質的に福島原発事故以降の初めての学会ということもあり、多くの ^{129}I に関する口頭発表が行われました。また、筆者はスペインの Lopez-Gutierrez 博士と一年ぶりに再会し研究に関するディスカッションを行いました。エクスカージョンでは ASTER や小型の AMS である MICADAS を見学し、各研究者が利用している AMS との比較やそれに伴う討論など、非常に有意義なものとなりました。

また、真面目な議論だけでなく学会に付随した昼食では食の王国らしくビュッフェ形式のフランス料理などを楽しみながらの討論やゲームを伴った要旨集、ジョークを含んだ統括など、新鮮な学会でした。僭越ながら、この学会によって更に AMS に関連した地球化学の研究が発展することを祈るばかりです。最後になりますが、今回の海外派遣に関して鳥居基金を採択していただいたことを御礼申し上げて、本報告書の締め括りとさせていただきます。ありがとうございます。

提出日: 2014/09/23